



令和 6 年 12 月 2 日
海上保安庁

富山湾の海底で斜面崩壊の痕跡を確認(第 3 報)

～高岡市伏木沖の海底でも斜面崩壊～

海上保安庁では、10 月 31 日から 11 月 2 日にかけて、測量船「海洋」において富山湾の海底地形調査を実施し、高岡市伏木沖の海底において斜面が崩壊していることを確認しました。

これまで、海上保安庁では、令和 6 年能登半島地震発生後における富山湾の海底地形調査について、富山市沖の海底谷の斜面が一部崩壊していることを報告しておりました(参考 1、図 1)。

今般、高岡市の伏木検潮所においても地震発生後の 2 分後に津波の第一波が観測されており、気象研究所が同検潮所の近傍にも津波の波源が存在する可能性があると指摘したことを踏まえ、測量船「海洋」により、高岡市伏木沖の海底地形調査を実施しました。

本調査により取得した水深データと、新湊漁業協同組合(以下「新湊漁協」という。)から提供を受けた水深データを、平成 22 年(2010 年)に北陸地方整備局伏木富山港湾事務所が取得した水深データと比較した結果、高岡市伏木沖の海底谷の斜面(水深約 15～350m)が南北約 3km、東西約 0.5kmにわたって崩れ、最大 10m程度深くなっていることが明らかになりました(図 2、3)。

今回のような斜面崩壊の情報は、船舶の航行安全のみならず、津波防災や漁業などの様々な分野に役立つことが期待されます。なお、富山県水産研究所から、「今回の調査で明らかになった斜面崩壊の痕跡は、漁場に影響を及ぼしていることを具体的に示すものであり、今後の操業位置の検討などに本結果が活用されることを期待します」とのコメントがありました(参考 2)。

今回の調査結果については、12 月 10 日に開催される地震調査委員会に報告する予定です。

参考1 関連広報

- ・令和6年1月24日 「富山湾の海底で斜面崩壊の痕跡を確認」
- ・令和6年3月11日 「富山湾の海底で斜面崩壊の痕跡を確認（第2報）」

参考2 富山県水産研究所からのコメント

「今回の調査で明らかになった海底地形変化は、斜面崩壊が漁場に影響を及ぼしていることを具体的に示すものです。富山湾では能登半島地震以降、シロエビの不漁が続き、昨年の3割程度まで漁獲量が減少しています。シロエビは高岡市伏木沖の海底谷が主漁場となっており、斜面崩壊が海水中の濁度の上昇やそれに伴う溶存酸素濃度の低下を引き起こし、シロエビ資源を減少させた要因と考えています。今後、漁業者において、網を入れる操業位置の検討などに本結果が活用されることを期待します。」

参考3 測量船「海洋」による海底地形調査について

海底地形調査は、測量船「海洋」に搭載しているマルチビーム測深機を使用して実施しました。マルチビーム測深機は、船底の送受波器から海底に向けて音波を扇形に発射し、反射した音波を受信することで、面的に海底地形を調べることができます。



マルチビーム測深の概念図



測量船「海洋」

【船体要目】

就役年月	平成5年10月
総トン数	550トン
全長	60.0メートル
幅	10.5メートル

参考4 新湊漁協から提供を受けた水深データ

水産庁「令和6年能登半島地震漁場等機能回復対策事業」を活用し、新湊漁協が取得した水深データです。

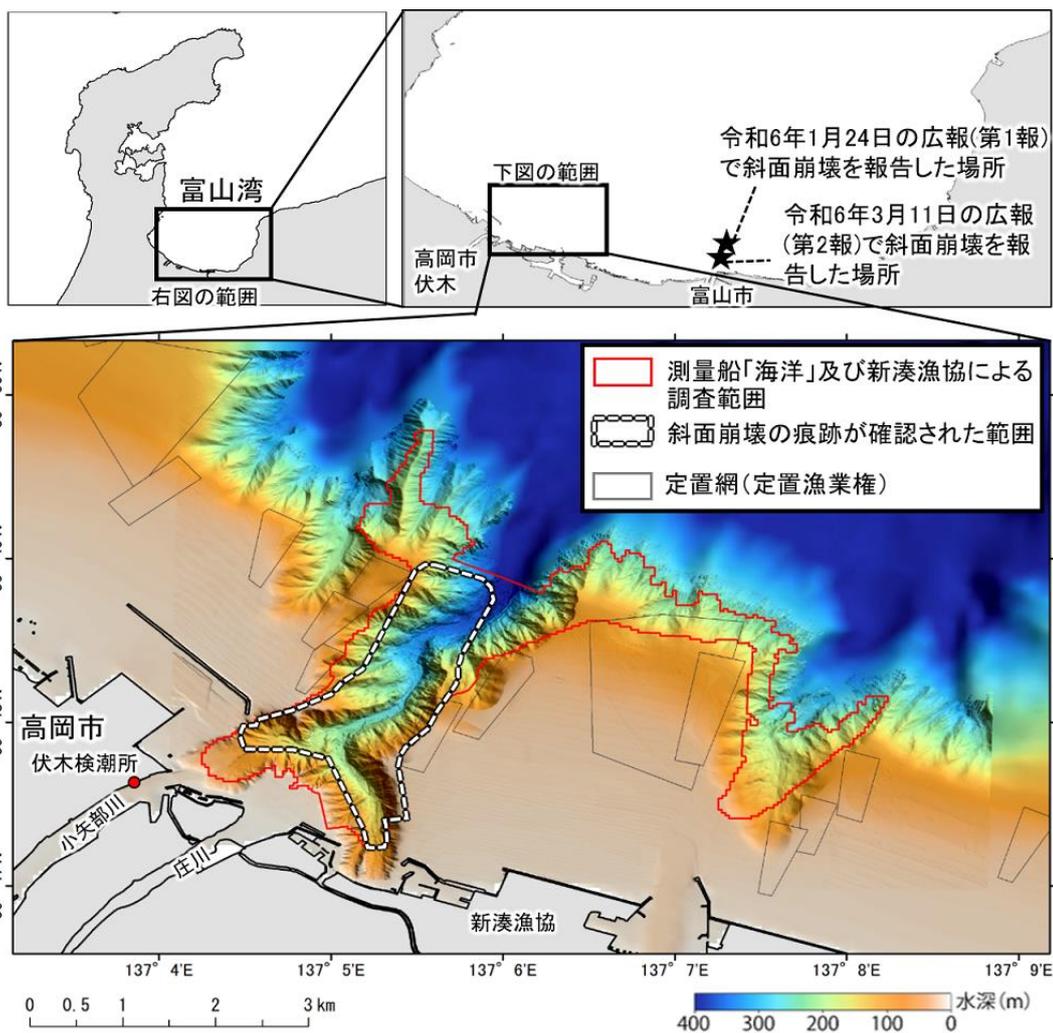
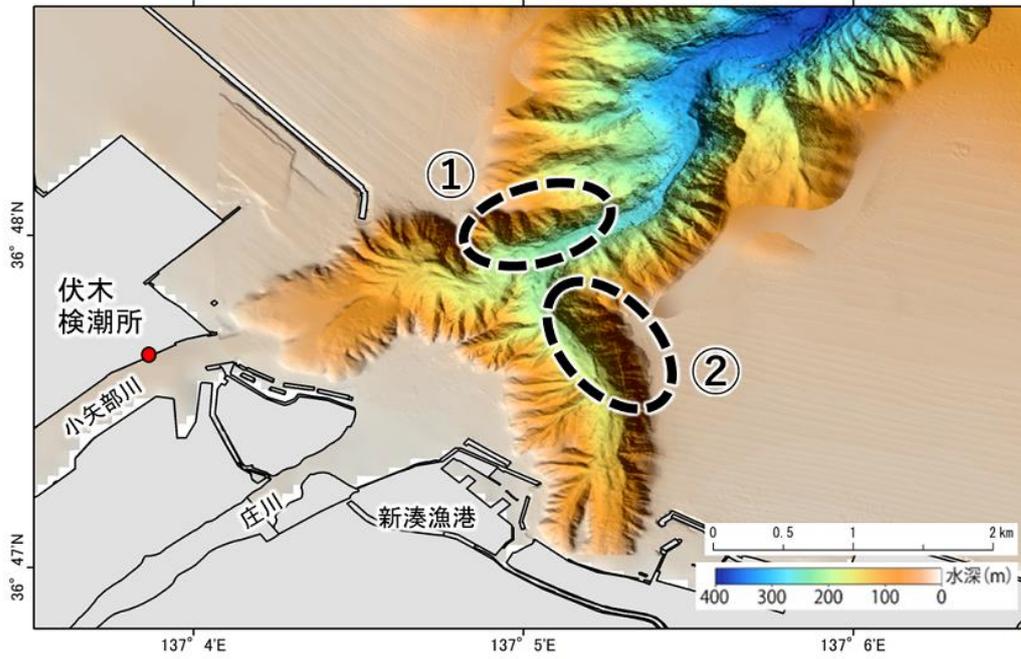
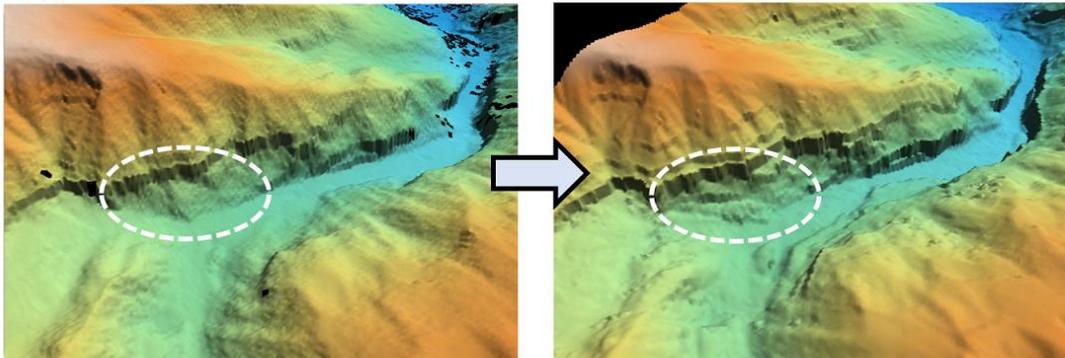


図1 伏木沖の調査範囲

※本図は測量船「海洋」、新湊漁協、北陸地方整備局伏木富山港湾事務所が取得した海底地形を重ねた図



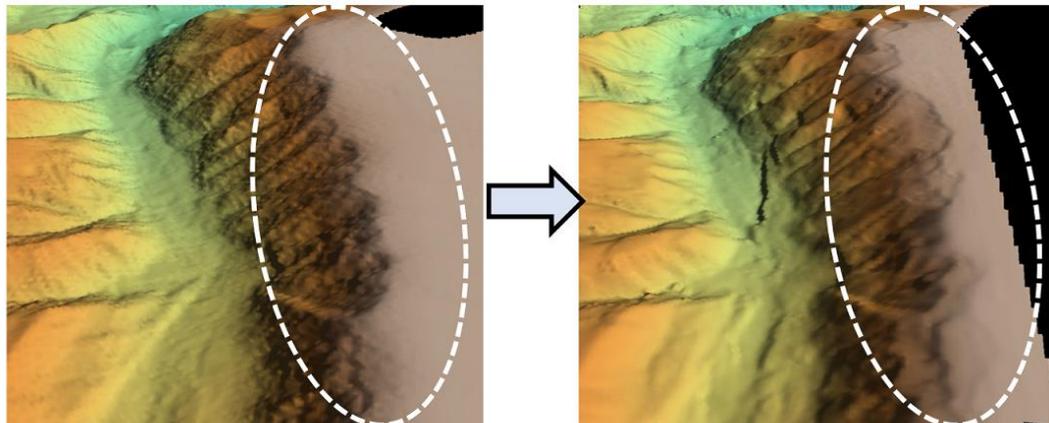
①伏木航路



2010年の北陸地方整備局伏木富山港湾事務所の調査結果(鳥瞰図)

2024年の測量船「海洋」及び新湊漁協の調査結果(鳥瞰図)

②新湊漁港港口付近



2010年の北陸地方整備局伏木富山港湾事務所の調査結果(鳥瞰図)

2024年の測量船「海洋」及び新湊漁協の調査結果(鳥瞰図)

図2 2010年と今回(2024年)の海底地形の比較

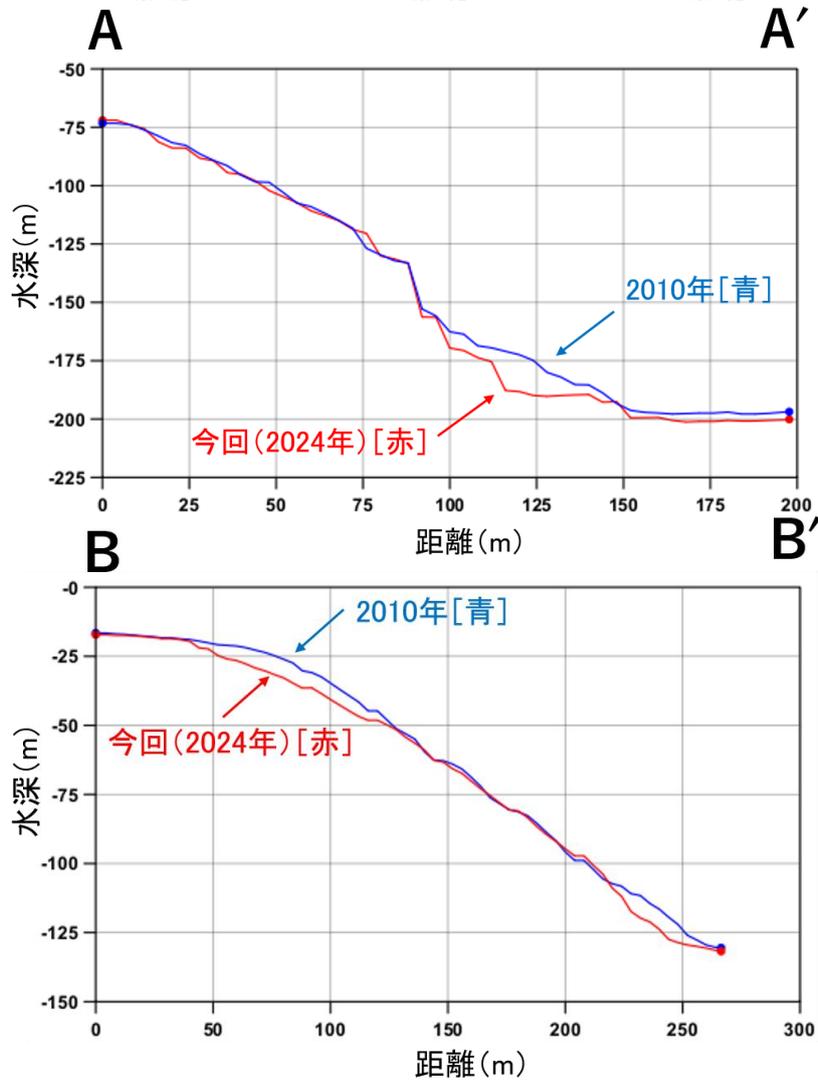
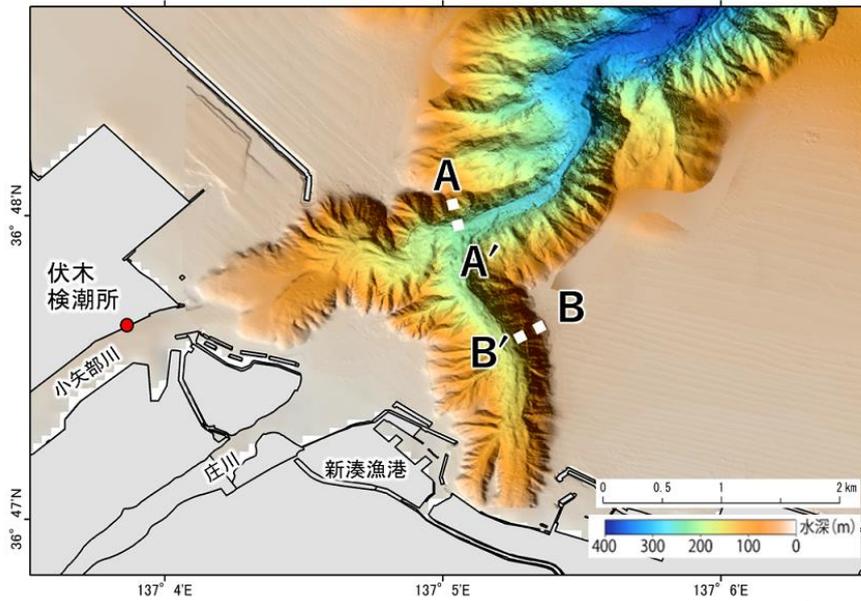


図3 2010年と今回(2024年)の海底地形の比較(断面図)